

# 津幡の空から

石川県学校生活協同組合

2021・2月号

石川県学校生活協創立72年目（信頼・安心・安全・適正・平等・共働・貢献）

困ったな！ 新採加入率 70%（2021年1月末現在）

石川県学校生活協同組合理事長 細野祐治

石川県学校生活協同組合への新採用教職員の加入率は、例年なら今頃は90%を越えています。しかし、2020年度は1月末70%です。その最大の原因は、新型コロナウイルスの感染予防策の徹底です。石川学校生協では、事務所内にウイルスが感染しないように、「30人以上の集会に参加しない、開催しない」「4人以上の飲食を伴う会に出席しない」を昨年3月より徹底しています。そのお蔭か、まだ一人も感染者を出していません。しかし、この30人以上の集会への不参加により、教職員参加の各種会合での学校生協のPR、加入PRができていません。また、生協職員による加入催促の学校訪問も、例年の半分も出来ていません。このままでは、80%に届かないのではないかと心配しています。2月・3月とまだ時間はあります。生協職員も可能な限り加入への取り組みを進めますが、学校内、職員室内への訪問ができない場合もありますので、もしみなさんの回りに未加入の方がおられましたら、「学校生協に加入したら良いよ」ひと声かけてあげてください。よろしくお願いします。



## 12月単月の経常剰余は予算を362万円上回りました。前年より392万円改善！

石川県学校生協の12月累計では、経常剰余754万円の赤字となっていますが、予算差+623万円、前年差+752万円となりました。事業剰余は予算比で、通信共同購入118%（予算差+632万円）、フレッシュ共同購入110%（予算差+1,828万円）で、2桁の超過達成が続いています。指定店一般の業績も改善傾向で予算に近づいた数字になっています。年度末決算まで残すところ2ヵ月になりました。職員が一丸となり知恵を絞って頑張っています。みなさん、どうぞご利用ください！よろしくお願いいたします。

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

## 『エピクロス』

快楽主義の人と言えば、遊んだり騒いだり宴会を開いて盛り上がったたりするのが大好きな人と言う印象を受けるのではないのでしょうか。ところがエピクロスは、酒色に耽り、様々な享楽を求めて暮らしていたと言う誤解を受けがちなのです。エピクロスの信条では、際限のない享楽や快楽は最も避けるべき忌まわしいことでした。健康を害する過度の飲食や心身を乱す無茶な騒乱は厳に避ける行為だと考えていました。自然の中に遊び自然の豊かさに抱かれてゆったりとした心持で生きること。心の平静に満たされた暮らしをすることこそがエピクロスの快楽でした。柔らかな陽射しの差し込む縁側で、身体に合った心地良い椅子に腰かけて、静かに読書に親しむ。時々お茶をいただく。風に揺れる花の風情に浸ると言った心休まる日常がエピクロスにとつて、最高の快楽に満ちた暮らしでした。テレビで放映される際限のない空騒ぎに心乱れる、反知性の現代に有り勝ちな暮らしではなくて、文化からの贈り物に静かに触れる知的な暮らしこそがエピクロスの思い描く真の快楽です。エピクロスの仲間たちエピクロス学派の人たちは、政治的な争いや対立にも係わることなく、自然に溢れる土地で、知的な感情に浸りながら静かに暮らしていました。それで、エピクロス学派の人たちを庭園派と呼ぶことがありますが、エピクロスの信条とする知的な快楽について考えてみたいものです。

## 北本 豊春

## 編集後記

まず20歳代にPCR検査の実施を  
今、私たちは、いつ新型コロナウイルスに感染するかと不安の中にいます。しかし、その防御策がマスク・手洗い・三密防止から進んでいません。予防ワクチン接種の実施が2月末からと聞いていますが、その間に、早急に、特に20歳代の人たちにPCR検査の実施を、私は提案します。

現在、広がっている新型コロナウイルスの感染拡大の元凶は、陽性無症状者によるものです。自覚症状ないのですから本人が外出をためらう必要がありません。ですから、感染が常に広がっているのだと思います。そこで、この陽性無症状者を発見し、この人たちの自宅待機・施設入居を早急に進めるべきです。

そうすることによって、90%以上の陰性者に外出自粛をさせる必要はなくなり、経済活動も活発になります。20歳代の次は30歳代へと進めていけばよいのではないのでしょうか。（年寄りの呟き 道祐）